北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 54　2019年8月

〒102-0093 千代田区平河町 1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
http://nofence.jp/

北への経済制裁継続し「苦難の行軍」再現したら北の民衆は立ち上がる！　7.13 金正奉氏講演

歴代韓国政権の北朝鮮認識を支える北朝鮮ウォッチャー金正奉氏の Web 講演がソウルとの間で実現した。以下私のメモをもとに内容を 7 点に分けてご報告し、最後に私（小川晴久）の感想を付す。

一、　北朝鮮は嘘と暴力で支配する

開口一番氏はこう指摘され、我々を驚かせた。その約一か月前初来日された元北朝鮮駐英公使太永浩氏が、北の体制の特徴と弱点を、①閉鎖性、②暴力（殺す、収容所送り）、③対外的暴力（核、ミサイル）と 3 点にまとめ指摘されていたからである。金正奉氏は若干変化は起きていると補足された。外部の情報が入り始め、北の民衆は嘘ばかりにだまされていないこと、国連の人権攻勢により、刑法を改正し、取り調べ段階での拷問を少し控えるように上からの指示が下りていること、しかし政治犯収容所では暴力は何ら変化なく行われていると。そのあとで、携帯所持者は 600 万人、毎年の観光客は 20 万人であると言われた。

二、　今北朝鮮には二つの党（ダン）がある――労働党と市場（チャンマダン）である

住民は党の決定には必ずしも服していず、生きる拠り所である市場を主体的に守り運営している。民衆は主体（チュチェ）という言葉をこのように生かしている。

三、　第二の「苦難の行軍」起きれば、民衆は立ち上がる

国連の経済制裁が続けば(年内は持つとしても)、来年以降 1990 年代後半のような大量餓死(苦難の行軍)が起きるだろう。その時の民衆は 1990 年代の民衆ではない。当時の民衆は世界を知らなかった。今は違う。地方の諸都市(新義州、清津、元山など)で民衆は蜂起するであろう。それが平壌にどう波及するかどうかだ。中央と結びつかないと政権は倒れない。

四、　その途上で金正恩の暗殺がありえる

1979 年 11 月の朴正熙の暗殺が参考になる。朴正熙は KCIA 部長に殺された。近年金正恩が粛清しているのは護衛司令部の幹部たちである。護衛司令部は韓国では青瓦台に当たる。護衛司令部の幹部たちはなぜ三代目の金正恩に従ってきたのか。それは今まで通り外貨などを稼ぎ秘匿できたからだ。そこにメスが入り、外貨が没収された。幹部たちは金正恩を支持するメリットがなくなった。

五、　軍は独自に経済活動を始めている

北朝鮮当局は予算を付けずに事業を下部に命じている。自力更生を強調して。各部署は自ら金を作って組織を維持し、ノルマを達成するしかない。軍は運転兵とトラックを民間に貸し出して財政を賄っている。軍資本主義でアパート建設を行っている。一方、金正恩は軍の勢力を殺ごうとしている。去る 4 月 16 日憲法を改正したが、「先軍政治」の言葉が無くなっている。

六、トランプ、中国、文在寅について

アメリカは議会の力が強いので、トランプは議会を無視して単独で北と何かを結ぶことができない。昨年末米議会は 3 方針を決めた(CVID).

中国の北朝鮮政策は、非核化、体制保障、制裁解除の三つを「双平行双中断」させていくものである。

文在寅は非核化よりも南北関係の改善に重点を置いている。脱北者は南北統一にマイナスと考え、韓国内の脱北者たちへの支援を打ち切り、脱北者たちが主要メディアに出演できなくさせている。

七、　金正恩の動向

彼は民衆を恐れている。ハノイ会談後、指導者を神格化してはいけないと説き、又私は指導力が不足していると言っている。その一方で自分の偶像化も図り始めている。就任 3 周年の記念式に自分の写真だけを掲げている。憲法改正で自分を全北朝鮮の軍の最高司令官と規定している。

健康ではない。アルコール依存症の域で、ワインを何本も空ける。ヘビースモーカーである。2月の中朝会談で、夫人が夫の病気のことを話題にする。心臓病と高血圧の危機。

〈Web 講演を聴いて思うこと〉北朝鮮は2つの党(ダン)が支配している、労働党と市場(チャンマダン)だという指摘は、建国 71 年を迎える北朝鮮の現在を語る極

めて適切な指摘である。党は金一族の支配を、市場は民衆の生きる手段を示す。この二つの関係は、後者が前者の言うことを聞かない確かな自立した存在に成長しつつあることだ。今まで軍は党の権力を構成する暴力装置であった。しかしその軍も自らを経済的に維持するために市場経済を図らざるを得なくなっている。軍は党と市場の二つの勢力の両方にまたがり始めている。軍はどちらに忠誠をつくすか、二つに分裂する可能性がある。金一族に忠誠を尽くすか、民衆に忠誠を尽くすのか。

北がこのような構造になってきたのも、ミサイルと核(開発)で自らの体制を守ろうとし、民衆の生活維持に使うべき財源を暴力装置の開発に使ってきたからだ。1990年代後半に300万人ともいわれる餓死者を出した(苦難の行軍)。しかし民衆はこの構造の中から生きるために闇市場を作り始め、今や政府に黙認させて、全国に500余の市場が機能している。改革開放を進めようとしていた張成沢一派を二万名近く粛清したため、金正恩権力は市場に依存する権力層幹部を除去してしまった。今更経済建設と騒ぎだしても、もう遅い。体制は二つに割れたのだ。党と市場の二つの「ダン」に。金一族と市場民衆派に。軍が予算が下りないために商売を始めた。市場に乗り出したのだ。あとは党の指導力だ。その中心にいる金正恩は若いが病気持ちだ。ミサイル・核開発を止めないため経済制裁は簡単には解かれない。軍は二つに分かれざるをえないだろう。金正奉氏が近いと考えたのは、将来大規模な食糧危機(苦難の行軍)が発生したときに、金正恩の暗殺が起きるだろうという予測だ。

私たちNO FENCEは何をなすべきか。山の中の強制収容所(政治犯収容所)の存在・実態とその廃絶を訴えていくことあるのみである。昨年一年は文在寅とトランプにしてやられ、強制収容所(政治犯収容所)問題が隠されてしまった。世界は、日本は、再びここに集中しなければならない(小川 晴久)。

現在、完全な奴隷社会が存在している

太永浩氏の書の日本語版を読んで　小川 晴久

昨年5月15日ソウルで刊行された太永浩氏の証言録『三階書記室の暗号』の日本語版が去る6月15日に文藝春秋から『三階書記室の暗号 北朝鮮外交秘録』と題して刊行された。定価は本体 2200円+税である。ぜひ皆さんお読みくださることをお勧めする。

私は昨年5月30日北朝鮮人権国際会議がソウルで開かれた折、刊行されたばかりの原書を購入し、一読した。その時原書の172頁から185頁にかけて紹介されていた金正日の世界欺瞞戦略の紹介に、我が意を得たりと思い、それを本書の最大の貢献と考えた。日本語版では152頁～161頁に当たる。そこには大略以下のことが書かれていた。

2001年5月当時EU議長を務めていたスウェーデンの首相ペルソン(パーション)氏が平壌を訪問し、金正日と会談した。太永浩氏は通訳としてその場にいた。ペルソン氏は核問題を語った後、突然議題になかった北朝鮮の深刻な人権問題を語りだした。たとえ核問題が解決したとしても、人権問題を解決しない限り、あなたたちは世界に迎え入れられないでしょうと。議題にもない人権問題の発言に北朝鮮側はびっくりした。しかし金正日は「人権問題は大事な問題であるが、あなた

たちとの間に人権概念解釈で大きな隔たりがある。しかし人権問題で対話することは大事でしょう。その対話に応じます」と対応した。会談が終わった後姜錫柱外務副相を呼んで、対策案を練ろと指示した。外務省幹部は数日後に次のような対策案を提示し、了承された。「核問題をいつも前面に出し、西側を核問題に釘付けにして、人権問題を隠す」と。金正日のこの欺瞞戦略は今日まで引き継がれている。太永浩氏がこの場面を本書で世界に明るみに出してくれたことが、北の人権問題の解決こそ北問題の解決の鍵だと考える者たちにとって、本書の最大の貢献と考えた。

このたび日本語版が出た。日本語版を読んで、私は本書の第二部と最終章の内容に目を開かされた。1967年5月25日の朝鮮労働党15中総で金日成の神格化が開始されて以後を、私たちは北朝鮮の全体主義化と見てきたが、太永浩氏もこの期以後を北の変質ととらえておられる。全体主義という言葉は使われていないが、51成分分類が始まるこの時期を、北朝鮮の封建社会への後退、1994年7月の金日成の死後を、北朝鮮の奴隷制社会への後退と規定し、一日も早く奴隷社会を解放しようと呼びかけているのだ。51成分分類が、核心階層、動揺階層、敵対階層の三大身分社会化を意味していて、まさしく封建社会への後退であるという指摘は納得できる。その上で現在を奴隷社会と規定するのは、金正日、金正恩の前ではすべての人がイエスマンで、奴隷となるしか生きられないという痛烈な指摘なのだ。一年前に原書を読んだ時も、第二部と最終章(第9章)の表題は「奴隷の解放のために」となっていて、この表題に気づいていた。今回日本語版を読んでみて、北社会の封建社会への後退、さらに奴隷制社会への後退の後退史観がよく分かった。太永浩氏は韓国の大学生たちに、全世界の私たちに、北朝鮮の人々を一日も早く奴隷から解放しようと強く訴えておられるのである。日本語版が出て、それがハッキリした。しかるに日本語版は本書第二部の表題を「南北統一のために」、その最終章の表題を「金王朝の崩壊が始まった」と変えて訳している。どちらも原書通り、太永浩氏の意が込められた「奴隷解放のために」と訳すべきであった。

日本語版は章題や見出しを原書に忠実に訳していない。本文そのものを誤訳・改訳するわけにいかないが(それはしていないので翻訳書の価値はそこにあるが)、見出し等のたくさんの改訳は日本語版の致命的な欠陥である。太永浩氏が本書で一番訴えたい「奴隷の解放のために」を表題・章題として訳していないことは、氏の意向に背いている。私は日本語版の刊行を評価するものであるが、数々の見出しの改訳は原書通りに訳さるべきである。そのことは断乎指摘する(小川　晴久)。

お知らせ

金正奉氏がYouTubeにチャンネルを開設しました。 宋允復氏提供

「金正奉の安保Focus」(韓国語)
https://www.youtube.com/channel/UCaTiwa_ZTCmqTTOe_BtEudw